

令和6年8月5日

報道関係者
地域広報関係者 各位

国際日本文化研究センター

第351回 日文研フォーラム開催のお知らせ

国際日本文化研究センター（日文研）は、次のとおり、第351回 日文研フォーラムを開催いたしますので、周知へのご協力をよろしくお願いいたします。

発表題目 **神・仏・「神仏習合」—歴史的意義と現代実践**開催日時 **2024年9月10日（火）18時30分～20時30分（開場：18時10分頃）**開催会場 **ハートピア京都 3階 大会議室**（京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町 375）
京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車 5番出口

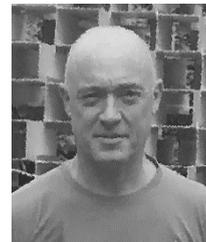
【講師】

ルチア・ドーラ・ドルチェ
ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院
日本宗教研究センター 議長／
国際日本文化研究センター 外国人研究員



【コメンテーター】

磯前 順一
国際日本文化研究センター 教授



【司会】

タイモン・スクリーチ
国際日本文化研究センター 教授

要旨

日本の宗教は、異なる起源の神々（今日では「神道」と呼ばれるもの）と仏教の諸尊に関連する信仰や空間を組み合わせ、しばしば「習合宗教」と描写されます。明治維新は、この宗教性の特徴を破壊しようとし、神社と寺院を制度的に分離された存在として作り上げることに成功しました。しかし、儀礼の観点から見ると、「神」と「仏」の相互作用が続いていることがわかります。

「神仏習合」の意味は何でしょうか？「神」と「仏」の組み合わせはどのような形で発展し、現在までどのような影響を与え続けているのでしょうか？この講演では、歴史上の「神」と「仏」の組み合わせ、特に視覚的な表現および儀礼に注目して論じます。キリスト教の儀礼との比較もしながら、最近、神社で遂行される新しい習合的な実践の意味を問いかけます。

申込方法

・以下を明記のうえ、申込フォームまたはハガキのいずれかにてお申し込みください。

①イベント名、②氏名（フリガナ）、③郵便番号・住所、④電話番号（日中ご連絡がとれるもの）

＜＜申込フォームの場合＞＞ <https://forms.office.com/r/9i91hLG0ug>

＜＜ハガキの場合＞＞

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町 3-2

国際日本文化研究センター総務課広報係「日文研フォーラム」担当宛

入場無料

定員：90名
(申込要)

- ・ 申込締切：8月23日（金）正午
- ・ 申込者多数の場合は、抽選を行います。
- ・ 結果は当落にかかわらず9月2日頃ハガキにてお知らせいたします。
- ・ 複数名で参加ご希望の場合は、全員分の必要事項（上記①～④）が必要です。
- ・ お預かりした個人情報、大学共同利用機関法人人間文化研究機構関連事業や国際日本文化研究センターが主催するイベント及び活動等のご案内に使用いたします。

日文研フォーラムとは

国際日本文化研究センター（日文研）に滞在中の外国人研究者による日本研究の成果を地域の皆さまにご紹介し、交流の一助となることを主な目的とするイベントです。1987年の設立以来、京都市中心部の会場で継続的に開催しています。

※取材を希望される場合は、日文研総務課広報係までご連絡をお願いいたします。

第351回

日文研フォーラム

International Research Center for Japanese Studies
The 351st Nichibunken Forum

神・仏・「神仏習合」——歴史的意義と現代実践

講師 ルチア・ドーラ・ドルチエ

ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院 日本宗教研究センター議長／日文研 外国人研究員

コメンテーター 磯前 順一 日文研教授

司会 タイモン・スクリーチ 日文研教授

2024年9月10日(火)

18時30分～20時30分 (開場18時10分頃)

場所…ハートピア京都 3階 大会議室

申込要・定員90名(抽選による)

入場無料

主催…大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター

差し色の名前…●唐紅花(からくれない) ●若草色(わかさぎ)

神・仏・「神仏習合」— 歴史的意義と現代実践

日本の宗教は、異なる起源の神々（今日では「神道」と呼ばれるもの）と仏教の諸尊に関連する信仰や空間を組み合わせ、しばしば「習合宗教」と描写されます。明治維新は、この宗教性の特徴を破壊しようとし、神社と寺院を制度的に分離された存在として作り上げることに成功しました。しかし、儀礼の観点から見ると、「神」と「仏」の相互作用が続いていることがわかります。

「神仏習合」の意味は何か？「神」と「仏」の組み合わせはどのような形で発展し、現在までどのような影響を与え続けているのでしょうか？この講演では、歴史上の「神」と「仏」の組み合わせ、特に視覚的な表現および儀礼に注目して論じます。キリスト教の儀礼との比較もしながら、最近、神社で遂行される新しい習合的な実践の意味を問いかけます。

講師 ルチア・ドーラ・ドルチェ ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院 日本宗教研究センター議長
日文研 外国人研究員



1989年イタリアのヴェネツィア大学修士取得(日本学)、1998年オランダ国立ライデン大学文学博士課程修了。文学博士。ロンドン大学アジア・アフリカ学院教授を経て、2003年より現職ロンドン大学アジア・アフリカ学院 日本宗教研究センター議長。2024年4月より国際日本文化研究センター外国人研究員。専門分野は日本宗教史、東アジア仏教学、儀礼学、宗教の視覚文化。主要著作に、ルチア・ドルチェ/三橋正編『「神仏習合」再考』(共編、勉誠社、2013)、ルチア・ドルチェ/松本郁代編『儀礼の力—中世宗教の実践世界』(共編、法蔵館、2010)、「法華経と密教」(『法華経と日蓮』(シリーズ日蓮 第1巻)春秋社、2014)、「台密における法華経解釈と儀礼—法華法と法華曼陀羅について」(天台学報 48、2007)などがある。



コメンテーター 磯前 順一 日文研 教授

1991年東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。文学博士(東京大学)。1997年より日本女子大学助教授、2007年より国際日本文化研究センター研究部准教授を経て、2015年より現職。専門分野は宗教学、批判理論。主要著作に、『生者のざわめく世界—震災転移論』(木立の文庫、2024)、『居場所のなさを旅しよう』(世界思想社、2023)、『石母田正一—暗黒のなかで眼をみひらき』(ミネルヴァ書房、2023)などがある。

申込方法

- ①イベント名 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号(日中ご連絡がとれるもの)を明記のうえ、申込フォームまたはハガキのいずれかにてお申し込みください。申込者多数の場合は、抽選を行います。
- 申込締切は令和6年8月23日(金)正午必着。
- 結果は当落にかかわらず令和6年9月2日頃ハガキにてお知らせいたします。
- 複数名で参加ご希望の場合は、全員分の必要事項(①イベント名 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号(日中ご連絡がとれるもの))が必要です。

申込フォームの場合：<https://forms.office.com/r/9i91hLG0ug>

ハガキの場合：〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町 3-2

国際日本文化研究センター総務課広報係「日文研フォーラム」担当宛

※お預かりした個人情報は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構関連事業や国際日本文化研究センターが主催するイベント及び活動等のご案内に使用いたします。

申込フォーム



京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都

【アクセス】

- 京都市営地下鉄丸線「丸太町」駅下車 5番出口(地下鉄連絡通路にて直結)
- 京都市バス、京都バス、JRバス「丸太町」バス停下車

お問い合わせ先

国際日本文化研究センター 総務課広報係
〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町 3-2
TEL: 075-335-2046
E-mail: forum@nichibun.ac.jp
<https://www.nichibun.ac.jp/>



次回 第352回

日文研フォーラム

詳細が決まり次第、日文研ウェブサイトにてお知らせいたします。